

様式1

令和6年度 山口県立徳山高等学校(定時制) 学校評価書 校長(浅原 正和)

1 スクール・ミッション、学校教育目標	
生徒の多様なニーズに応え、確かな学力を育成するとともに、協調性、思いやりの心を育む教育を行います。また、計画的かつ効果的なキャリア教育を通じて、自らを高め、地域や社会に貢献しようとする、自立した人材を育成します。	
2 スクール・ポリシー	
グラデュエーション・ポリシー (育成をめざす資質・能力に関する方針)	<ul style="list-style-type: none">○ 基礎学力と主体的に学ぶ姿勢を身につけ、自らを高め、社会に貢献できる生徒を育成します。(学ぶ)○ 自分の将来への希望や見通しを持ち、その実現に前向きに努力する生徒を育成します。(夢見る)○ 協調性や思いやりの心を持ち、周囲の人や社会のことを考えて行動する生徒を育成します。(支え合う)
カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒が意欲的に学ぶ「学ぶ 夢見る 支え合う 定時制」をめざします。○ 基礎・基本を大切にし、進路への意欲を引き出す教育活動を行います。○ 心身ともに健やかで、相互に支え合うことのできる生徒を育成します。○ 社会人としての自覚を持ち、感謝する心を育むことをめざします。
アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)	<ul style="list-style-type: none">○ 働きながら学ぶ意欲と責任感を持ち、こんな人間になりたいという夢をもちながら、他人を思いやることのできる生徒を募集します。

3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

①学習指導

生徒の授業への取組は向上してきており、引き続き、個々の生徒の到達状況を踏まえ、きめ細やかな指導を行っていく。

②生徒指導

生徒には落ち着いた生活態度が身についてきており、引き続き、生徒理解に努めるとともに、教職員間の情報共有を図り、共通理解の下、支援を行っていく。

③進路指導

生徒は概ね希望した進路に進むことができている。引き続き、担任を中心に早期からキャリアカウンセリングを行い、全校体制でキャリア教育を推進する。

④健康・保健指導

健診後の治癒に向けた受診も進み、生徒の健康に対する意識が向上してきている。引き続き、検診後の事後指導を徹底させる。

⑤人権教育

学校で把握したいじめの件数は0であったが、多様な生徒に対応できるよう、引き続き、個々の生徒の観察をきめ細やかに行う。

⑥広報

生徒・保護者向けの情報発信手段が限られていたことから、新たに定時制だよりを発行するなど、校内外への情報発信の充実を図る。

⑦業務改善

情報共有の手段について、一部紙媒体を用いているため、原則ペーパーレス化するとともに、引き続き、教職員間の連携強化、各分掌業務の効率化を図る。

4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

①学習指導

学ぶ意欲の向上と一人ひとりの学力・個性に応じた指導の工夫

②生徒指導

少人数の良さを生かし、全ての教員と互いに情報を共有しながら心の育成を図るとともに問題行動の未然防止に努める体制

③進路指導

生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導の実践とキャリア教育の充実による生徒の進路実現意欲の向上

④健康・保健指導

一人ひとりを大切にされた健全な心と体の育成と検診の事後指導の徹底

⑤人権教育

人間関係づくりを基盤とした、いじめの未然防止、早期発見・早期対応

⑥広報

情報発信の充実

⑦業務改善

教員の協働体制を基盤とした組織力の充実

5 自己評価					6 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価	
学習指導	学ぶ意欲の向上と一人ひとりの学力・個性に応じた指導の工夫	基礎学力の定着に向けた個別の学習指導の充実と定期考査に向けた補充学習の一層の充実	4: 定期考査の平均点が70点以上 3: 定期考査の平均点が60点以上70点未満 2: 定期考査の平均点が40点以上60点未満 1: 定期考査の平均点が40点未満	4	どの学年も落ち着いた態度で授業に取り組んでおり、着実に基礎的な学力を身につけている。2学期末時点での定期考査の平均点は76.6点であった。今後も生徒の努力が実を結ぶよう、引き続き指導に努めていきたい。	一人ひとりに寄り添った指導が行われていることが良くわかる。今後も引き続き、このような指導を続けていただきたい。	A
生徒指導	少人数の良さを生かし、全ての教員と互いに情報を共有しながら心の育成を図るとともに問題行動の未然防止に努める体制	教育相談担当、及びスクールカウンセラーと連携した教員と生徒の意思疎通に向けた更なる工夫改善	4: 教育相談担当、スクールカウンセラーとの連携や生徒との意思疎通は十分図ることができ、問題行動の未然防止につながった 3: 教育相談担当、スクールカウンセラーとの連携や生徒との意思疎通は図ることができ、ある程度問題行動の未然防止につながった 2: 教育相談担当、スクールカウンセラーとの連携や生徒との意思疎通ある程度図られたが、問題行動の未然防止までにつながらなかった 1: 教育相談担当、スクールカウンセラーとの連携や生徒との意思疎通はあまりできなかった	3	スクールカウンセラーを含めた教職員全体で生徒の情報を共有し、日常的に生徒の観察や教育相談に努めた結果、ある程度問題行動を未然に防ぐことができた。一部の生徒には依然として改善の余地が見られるものの、着実に良い方向に向かっている。	アンケートからもわかるように、肯定的な意見が多く寄せられており、良い取組が行われていると思う。	A
		生徒会活動の見直しと少人数活動の充実	4: 生徒会活動を見直し、少人数を生かした活動が十分できた。 3: 生徒会活動を見直し、少人数を生かした活動ができた。 2: 生徒会活動の見直しはある程度行えたが、少人数を生かした活動はあまりできなかった 1: 生徒会活動の見直しが図れなかった	4	生徒会役員と生徒会担当教諭が密に連携し、学校行事等の活性化に全体で取り組んだ。特に、生徒会が自主的に改善策を話し合い、生徒会発案のアンケートを実施するなど、生徒の要望を可能な限り取り入れようと努めた。	中学校の時は活躍の場が限られていた生徒が、高校では先生方の指導により自己肯定感が高まっていると思う。	A

進路指導	生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導の実践とキャリア教育の充実による生徒の進路実現意欲の向上	<p>担任を中心として、生徒、保護者との個別面談を実施し、進路情報の取得と共有をすすめる。また、関係機関との連携による計画的な進路指導を進める。</p>	<p>4: 保護者懇談や個別面談での情報を共有により、個に応じた進路指導が実施できた。 3: 保護者懇談や個別面談での情報はある程度共有でき、概ね個に応じた進路指導ができた。 2: 保護者懇談や個別面談での情報共有があまりできなかった。 1: 保護者懇談や個別面談での情報共有ができなかった。</p>	4	<p>担任を中心に情報を共有し、連携して就職や進学への対応を行った。就職は2名中1名が内定し、進学は5名全員が決定した。いずれも第1希望の進路であり、満足のいく結果が得られた。</p>	<p>中学校で満身に学びができなかった生徒も、高校で学び直し、大学に進学できることが素晴らしいと思う。</p>	A
		<p>入学当初からの進路アンケート調査による生徒の進路希望の適宜把握と、適切な進路指導の実施</p>	<p>4: アンケート結果を教員間で共有するとともに適切な進路指導が実施できた。 3: アンケート結果をある程度教員間で共有でき、概ね適切な進路指導ができた。 2: アンケートは実施できたが情報共有に至らなかった。 1: アンケートも実施できなかった。</p>	4	<p>全学年を対象にアンケートを実施し、夏休み中に進学や就職に対応した課外授業を実施した。特に1、2年生の早い段階から、生徒の希望に沿った課外授業を行うことができた。また、夏休み中だけでなく、この課外授業をきっかけに、希望する生徒には年間を通じた課外授業を実施している。</p>	<p>取組の成果が出ていると感じた。</p>	A
健康・保健指導	一人ひとりを大切にした健全な心と体の育成と検診の事後指導の徹底	<p>生徒一人ひとりを大切に丁寧な指導と養護教諭及びスクールカウンセラー等との密な連絡による適切な指導</p>	<p>4: 円滑な連携のもと、個々の生徒への適切な指導が十分にできた 3: 円滑な連携がとれ、個々の生徒への指導につながった 2: 連携はある程度とれたが、個々の生徒への指導までには至らなかった 1: 連携が十分に取れず、個々の生徒への指導につながらなかった</p>	3	<p>生徒一人ひとりに関する情報交換を密に行うことで、各教員がそれぞれの立場から対応し、相談活動の成果が見られる場面もあった。しかし、家庭環境などさまざまな要因によって心の不調を抱えながら過ごしている生徒も多いため、今後も連携を強化し、継続的に対応していきたい。</p>	<p>まだ課題が残っていると感じる部分についても、今後も引き続き対応していってほしい。</p>	B
		<p>定期健康診断後の未受診者への個別指導や講演会等を利用した医療機関への受診促進</p>	<p>4: 個別指導や講演を通して生徒の健康意識が高まり、大半の生徒の受診行動につながった 3: 個別指導や講演を通して生徒の健康意識を高め、ある程度生徒の受診につながった 2: 個別指導と講演会を実施したが、受診につながらなかった 1: 個別指導、講演会が実施できなかった</p>	3	<p>保健だよりなどを通じて全体への事後指導を行うとともに、個別に受診を促す声かけや健康診断結果の再配布を実施した。その結果、一定数の生徒が受診に至った。しかし、依然として過半数の生徒が受診できていない状況である。今後は、個々の生徒に応じた受診の必要性を伝えるとともに、受診を促す適切な時期についても検討する必要がある。</p>	<p>粘り強く指導を続けていって欲しい。</p>	B

人権教育	人間関係づくりを基盤とした、いじめの未然防止、早期発見・早期対応	生徒意識調査やFitの調査結果を生かした個別の教育相談やいじめの未然防止のための指導の充実	<p>4: 調査結果を生かした個別の教育相談やいじめの未然防止の指導ができた。</p> <p>3: 調査結果を生かし、概ね個別の教育相談やいじめの未然防止の指導に活かすことができた</p> <p>2: 調査は実施したが、個別の教育相談やいじめの未然防止の指導に十分に生かされなかった。</p> <p>1: 調査結果の分析が不十分で、個別の教育相談やいじめの未然防止の指導に生かせなかった</p>	4	さまざまな課題を抱える生徒が多く、保護者との連携は不可欠である。支援を必要とする生徒もおり、今後も引き続き連携を深めていきたい。また、学校生活においていじめの認知はなく、生徒同士が互いの個性や人権を尊重する姿勢が見受けられる。	中学校の時に学校に通えず人間関係がつかれなかった生徒に対して、じっくり時間をかけ、先生が間に入るなどして少しづつでもいいので、身に付けて言って欲しいと思う。	A
広報	情報発信の充実	各行事等や給食献立の掲載など定時制ホームページ及び定時制だよりの内容の充実と周知	<p>4: 月1回以上のウェブページの積極的な更新・内容の見直しを行い、保護者等へ十分な情報発信ができた</p> <p>3: 1か月に1回程度のウェブページの更新・内容の見直しを行い、保護者等へある程度の情報発信ができた</p> <p>2: 2か月に1回程度のウェブページの更新・内容の見直しを行い、情報発信と周知がややできた</p> <p>1: 各学期に1回程度しかウェブページの更新・内容の見直し行われず、十分な情報発信ができなかった</p>	3	情報発信の充実を目指し、「定時制だよりに」を中心に、入学案内や給食献立、写真などを定時制ホームページに掲載した。具体的には、月1回の「定時制だよりに」の更新に加え、給食紹介のページの更新や令和7年度入学案内などの掲載を行った。今後も情報発信の質を高めるとともに、ホームページ以外の発信手段として、インスタグラムの活用なども検討していきたい。	広報活動は継続的なもので終わりはありませんが、しっかり取り組んでいってほしい。また、学校見学を随時受け入れていることは、生徒や保護者にとって非常にありがたいと感じていると思う。	B
業務改善	教員の協働体制を基盤とした組織力の充実	ジョブローテーションと業務の整理・効率化	<p>4: ジョブローテーションが3つ全ての分掌で行われ、業務の整理・効率化ができた。</p> <p>3: ジョブローテーションが2つの分掌で行われ、ある程度業務の整理・効率化ができた</p> <p>2: ジョブローテーションが3つの分掌のうち1つにとどまり、業務の効率化に至らなかった</p> <p>1: ジョブローテーションが行われず、業務の整理ができなかった。</p>	3	教員の協働体制を基盤とした組織力の充実、ジョブローテーション、業務の整理・効率化を目指して取り組んだ。その結果、少人数体制のため大幅なローテーションは実施できなかったものの、各分掌において一部変更を行った。具体的には、生徒課では相談体制の強化を図り、進路指導においても生徒一人ひとりへの個別相談を充実させ、進路選択の支援を強化した。今後もより良い体制をめざし、引き続き取り組んでいきたい。	常に見直しを行い、時代に合わせてアップデートしていくよう取り組んでいきたい。	B

7 学校評価総括(取組の成果と課題)

本校では、全学年が落ち着いた態度で授業に取り組み、基礎的な学力を着実に身につけている。2学期末の定期考査の平均点は76.6点であり、生徒の努力が成果を上げている。また、スクールカウンセラーも含めて教職員全体で生徒の情報を共有し、日常から生徒観察や教育相談に努めた結果、問題行動を未然に防止することができた。一方で、一部の生徒にはまだ改善の余地があるが、全体としては良い方向に向かっている。さらに、生徒会役員と担当教諭が連携して学校行事の活性化に取り組み、生徒会の自主的な改善活動やアンケート実施により、生徒の要望を積極的に取り入れる姿勢が定着してきた。文化祭の企画においても、生徒の意見を反映させたプログラムが実施され、多くの生徒が満足した。また、就職や進学に関しても、担任を中心に情報を共有し、ほとんどの生徒が第1希望の進路を決定した。就職希望者2名のうち1名が地元企業に内定し、進学希望者は5名全員が希望する大学などに合格した。さらに、夏休み中には進学や就職に対応した課外授業を実施し、特に1、2年生向けの進学対策講座や就職準備講座が好評であった。これにより、生徒一人ひとりの希望に沿った指導が行われた。しかし、家庭環境などの問題で心の不調を抱える生徒も多く、保健指導や健康診断の再受診の促進が課題である。保健だよりを通じて全体への事後指導を行い、個別に受診を促す声かけや健康診断結果の再配布を行った結果、ある程度の生徒が受診に至ったが、過半数の生徒がまだ受診できていない状況である。

8 次年度への改善策

次年度に向けて、まず心の不調を抱える生徒への支援を強化し、保護者との連携を深める。具体的には、定期的なカウンセリングセッションを設け、生徒の心の健康をサポートする。また、保護者に対しても家庭でのサポート方法について情報提供を行う。さらに、個別に支援を必要とする生徒には、継続的なサポートを提供し、学校と家庭が一体となって対応する。次に、保健指導においては、受診の必要性を個々の生徒に伝え、受診を促す時期を検討する。具体的には、健康診断結果をもとに個別に面談を行い、受診の重要性を説明する。また、保健だよりなどを通じて、受診の必要性を広く周知する。さらに、情報発信の質をさらに高め、ホームページ以外の媒体(例:インスタグラム)を活用する。具体的には、学校の活動や行事の様子を写真や動画で紹介し、保護者や地域社会とのつながりを強化する。定時制ならではの給食なども発信し、学校の魅力を広く伝える。また、教員の協働体制を基盤とした組織力の充実を図り、業務の整理・効率化を進める。具体的には、業務の見直しを行い、効率的な業務分担を実施する。進路指導においては、個別相談の時間を増やすなどし、生徒の希望や適性に応じたアドバイスを提供し、生徒一人ひとりに対するきめ細やかな支援を行う。これらの取組を通じて、より良い教育環境を提供し、生徒の成長を支援していく。